

7. 一人ひとりがイキイキと

「これを知る者はこれを好む者に如(し)かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如(し)かず。」

孔子(『論語』岩波文庫 84 頁)(OTANI UNIVERSITY)より

http://www.otani.ac.jp/yomu_page/kotoba/nab3mq0000040u8f.html

「孔子の学問に対する基本的な考え方や態度が表明されています。少しわかりやすく口語訳をすれば、「物事を理解し知っている者は、それを好んでいる人には及ばない。物事を好んでいる人は、それを心から楽しんでいる者には及ばないのだよ。」という感じになるでしょう。

さて、大学という学び舎(や)に集う私たちの日ごろの学習態度を振り返ってみるとどうでしょうか。授業で出された課題を、締め切りに追われて片付けるのがやっとのことで、学習を苦痛に感じる経験は誰しもあることだと思います。そもそも誰かに無理強いさせられていると感じているあいだは、どんな学びも決して楽しくはなりません。

でも、どうでしょうか。たとえば、もともと外国語が苦手だとしても、ただ義務的に授業を受けるのではなく、前向きに授業に取り組むことで、よりよく身につくことでしょうか。そして、身についた知識が増え、それによってその外国語の表現やその使い方などがわかってくると、その外国語をもっと学びたいという意欲が起こってくるのではないのでしょうか。

標題のこばでは、学びについて、「知る」「好む」「楽しむ」という三段階で表現しています。「知る」とは、単なる知識の獲得を意味するのに対し、「好む」とは、積極的な意志がはたらく段階です。さらにその上に、「楽しむ」が置かれています。自ら学ぶ意志がはたらくのが「好む」であるのに対し、「学ばずにはいられない」という感情がはたらくのが「楽しむ」という段階でしょう。語学学習の場合で言えば、外国語を読んだり話したりすることで心が躍る思いになるのが、「楽しむ」という状態でしょう。このように楽しんで取り組めるとき、人は、たとえ困難があったとしても、それを乗り越えて継続することができるように思います。

もちろん、何に楽しみを感じるかは、音楽、映画、スポーツなど人によって様々でしょう。それが何であるにせよ、「これを楽しむ」ことが、何かをやりとげる原動力になるように思われます。」

苦手なことが楽しくなる

カラオケがとても苦手でした。いわゆる”音痴“です。人の歌が外れているのはわかるのですが、自分の歌が外れているのはわかりませんでした。

会社の飲み会で、ずーっと歌うのを拒否していましたが、どうしても歌わなければならなくて、“北国の春”を歌ったら、途中でマイクを取り上げられたなどの悲しい経験が数多くあります。そのため、カラオケ装置があると、気分が落ち込んでいました。ずーっと、二次会などカラオケに

なっても拒否し続けてきました。逃げる気持ちが優先していました。

病気を少し考え方が変わりました。周りの目より、自分の心の声を大切にしたい。せっかくの人生逃げていた苦手なことややったことのないことに挑戦しようという気持ちに変わっていました。「他の人との比較ではなく、昨日の自分との比較」と思えるようになっていました。

社会保険センターのセミナー募集の一つに下記がありました。

「カラオケをボイストレーニングの基礎から学びます。苦手な人も歓迎」との説明があり、てっきり音痴の人のためのコースだと思い申し込みました。勘違いで、多くはカラオケが上手い人が基礎のボイストレーニングでさらに上手くなりたいと思う人でした。

才能とはそれにどれだけ時間を費やすことができるか。 諸葛孔明の言葉

「非学無以広才、非志無以成学」

(学ぶことで才能は開花する。志がなければ、学問の完成はない)

カラオケ教室に 250 時間、一人カラオケに 250 時間、合計 500 時間。これだけやると少しはましになり、かつ笑われてもよいとの自信がつき、人前で歌えるようになりました。私が歌うと、次に歌う人に“勇氣”を与えることができます(笑)。「私はもう少しでしたから大丈夫」と思ってもらえるのではと思うようになりました。

そして実は声を出して歌うことがストレスの発散にもなり楽しい時間になりました。歌うことが楽しくなったから続けられたのだと思います。

「世界一清潔な空港清掃人」新津春子著 ”仕事に愛を込めて”

<https://blog.goo.ne.jp/egaonoresipi/e/4ee11ebec2167cb1184645c4638f5a36> より

世界で一番きれいな空港に 2 年連続で羽田空港が選ばれ、その責任者をしている。中国の瀋陽からの 17 歳の時に両親と姉と日本に移った帰国子女で、日本語もわからなかったのも、仕事がなく、清掃の詩仕事しかなかった。

最初はビルクリーニング技能士の資格を取り、それから現場監督や指導員の資格・免許を取り、清掃の知識・技術を高めた。全国ビルクリーニング技能競技会で一位を取った。

今日より明日、明日より明後日、よくなるという希望があったから、私にとって身を粉にして働くことは苦勞ではなく、喜びだったのです。今までできなかったこと、知らなかったこと、新しいこと、前に向かってやるようにすれば、自分が変われるような気がするんです。うしろを見ると、前に進むのが遅くなるのです。人に言われたからやる、言われなからやらないではなく、私は何がしたいのか。ただ待っているだけでは誰も何も教えてくれません。納得できないことは聞く。わからないことは質問する。自分では当たり前だと思ってこうしてきましたが、こうして振り返ると、そのおかげで道が開けてきたのかなと思います。

相手を思いやる気持ちで清掃をするようになると、次第に、お客様から「ありがとう」とか「ご苦労様」と声をかけられることが増えてきました。仕事が楽しくなるというのは、人に認められてうれしいという意味でのやりがいから、自分の内面からわいてくる本当の意味でのやりがいに変わっていくということなんじゃないかなと、私は思います。

高校の同級生の人生;漫画家 西岸良平(三丁目の夕日)から学ぶ 人生の岐路

<https://blog.goo.ne.jp/egaonoresipi/e/ef19a0fa2aad0044f0da13861a05300f> より

A 君と B 君は高校3年生の時、同じクラスでした。学校の成績は A 君の方が B 君よりかなりできていました。A 君は第一希望の大学に落ちて M 大学に入りました。A 君はおもしろくありません。こんな M 大学なんか自分には相応しくないとの思いから、何もする気持ちになれません。

こんなバカばかりの M 大学なんかと思いながら芝生に寝転がっていたら、B 君が通りかかりました。そして A 君に「こんな良い M 大学に入れて幸せだよ。大学生活は楽しいし」と言葉を投げかけて来ました。そして同じサークル仲間と楽しく話しながら一緒に去って行きました。

A 君は希望している出版社に入れずに、小さな W 出版社に入りました。こんな W 出版社で何ができるんだ。俺だったらもっと大きな出版社で活躍できるのにとの思いでいっぱいでした。どういうわけか同じ会社/職場になった B 君が、A 君に「良い W 出版社に入れて良かったです。夢のようです。仕事は面白いし」と言い、バリバリと仕事に取り組みました。

A 君はちょっとしたミスを上司に指摘されいさかいになり、「こんなしょうもない W 出版社辞めてやる」と啖呵をきり、W 出版社を辞めました。

風景が変わり、A 君は W 出版社を辞めて転職しましたが、そこでも上手く行かず転職を繰り返しホームレスになりました。そして今、A 君はホームレス仲間と雪がちらつく中、お酒を飲んでいます。A 君の前を B 君が子供の手を繋ぎながら家族3人で通り過ぎました。それをぼんやりと A 君は眺めています。そして、ぼつりと「何が悪かったんだろう？俺の方ができたのに」とつぶやきます。

「置かれた場所で咲きなさい」渡辺和子著

人生において、自分で変えられるものと変えられないものがあります。この置かれた場所とは自分で変えられない状況を言われています。そこでどのような花を咲かすかは、自分次第だと。

「雑草は踏まれても諦めない 逆境を生き抜くための成功戦略」稲垣栄洋著

<https://blog.goo.ne.jp/egaonoresipi/e/75adb9b76670d94bf008c531767e38f6> より

では、自ら場所を移動できない雑草から学びたいと思います。その場所でどう花を咲かす(種を残するか)かです。そのための戦略を持っていました。

・オオバコの学名にあたるプランタゴは「足の裏で運ぶ」という意味である。じつはオオバコの種子は水に濡れるとゼリー状の粘着液を出し、靴や動物の足にくっつきやすくなる仕組みを持っているのである。そして人や動物の足によって運ばれて分布を広げていく。こうして踏まれることによって種子を散布するオオバコは、再び踏まれやすい場所に芽生え、自らの分布を広げているのである。

⇒逆境を逆手に取る。

・要求されるのは、けんかの強さよりも、次々と襲いかかる困難に対応するサバイバル能力なのである。抜かれたり、踏まれたりという生存にとって過酷と思われる環境こそが彼らの活躍の場なのだ。苛酷な環境を乗り越えることができれば、そこには大きいチャンスが待っている。

⇒人生からのさまざまな問いかけ(困難)にどう対応するか。

・なぜアイルランドで飢餓が起ったのか？ ジャガイモの話

1845年、アイルランドではジャガイモの疫病が突如として大流行し、記録的な飢餓となった。200万人もの人間が餓死し、国外へ脱出する人が後を絶たなかった。この時、新大陸へ移住した人々が、後のアメリカの繁栄を支えることになったという歴史を動かした大事件である。この飢餓の原因ははっきりしている。アイルランドで栽培されていたジャガイモは1種だけだったのである。そのため、1つの病気にいっせいに罹患することになった。人間が人為的に選抜した作物という集団では時としてこのようなことが問題になる。いくら優秀であっても個性のない金太郎アメの集団では、想定外の事態に陥った時、極端なもろさを露呈してしまうのである。雑草はこのばらばらであることを重視している。

⇒違っているからよい。

・冬の寒さを経験しない雑草に春は来ない

もし、雑草の種子が温度だけを感じて芽を出してしまったらどうだろう。秋にだって暖かい日もある。温度だけで判断をすれば、種子は、春がきたものと勘違いして芽を出してしまう。そして、冬の寒さを知らずに芽を出した雑草は春を迎えることができない。だから種子は見せかけの暖かさにぬか喜びすることなく、じつと冬の寒さを感じているのである。

⇒苦難を経験するから芽を出せる。

泥鰌掬いから学んだこと

何も芸がありませんでした。ボランティア友だちが、“かっぱれ”を習い出しました。私も何か

やりたいなと思っていた時、社会保険センターに「“泥鯱掬い”が始まります！」のポスターがありました。そこで早速申し込みました。泥鯱掬いは笑ってもらってなんぼです。泥鯱掬いを習って身についたことは、「笑われると笑った人は楽しい時間を持てた」、と思えるようになりました。そして皆が楽しんで貰えると自分も楽しく感じるようになりました。それまでは笑われないようにしようとしていました。

エーザイ美里工場(現在武州製薬)には1年しか在籍しませんでした。最後の異動者の挨拶の時、総務に私の番になったらこの“安来節“のテープを流して欲しいとお願いしました。音楽が流れだすと食堂の後ろから私が泥鯱掬いの正装で泥鯱掬い特有の歩き方で前に行き、泥鯱掬いを踊りました。後で聞いた話ですが、安来節の音楽と私の踊りを見て「あの人誰?」「今度本社に部長で異動する人みたい」「えっ、大丈夫なの?」との会話があったそうです。それから美里工場行くと、たった1年しかいませんでしたが、「泥鯱掬いの人」と皆が覚えてくれました。

習い事は資格や級/段があります。それを取ることで、また級/段が一つでも上がることが目標になり、また楽しみになるので頑張ることもできます。泥鯱掬いの踊りは3級からあり、三段まで取得しました。

相田みつを作

雨の日は雨の中を 風の日風の中を

雨だと嫌だな、風が強いと嫌だなと思います。でもそんな中でも受け入れて淡々と過ごす心境を表されているのでしょう。

砂漠地域では、雨の日は良い日だそうです。見る立場が違うと同じ雨でも気持ちは正反対です。

人生のトイレトペーパー

人生において辛い時はあります。ある人が神様に「辛い時間を短く、楽しい時間を長くして欲しい」とお願いしました。神様は人生のトイレトペーパーをくれました。早く巻くと時間が短くなります。しかし、ゆっくりすることはできません。その人は辛い時、早く巻きました。その結果人生が短くなってしまいました。いかに、辛い時を楽しい時間に変えるか。私のカラオケもその一例です。あるいは辛い時は、その辛い時が意味があるとの次の言葉を信じてみることでよいでしょう。「神様はその人の将来のために、その人が耐えられるだけの重荷を背負わせる」

マザー・テレサさんもあまりに過酷な試練が次から次とあるので、神様に祈ったそうです。「神様どうぞ、私が多くの試練に耐えられないでください」

相田みつを作品に追加(著者作)

雨の日は雨の中を楽しむ 風邪の日は風邪の中を楽しむ(アンダーライン追加)

雨の日が楽しくなるとステキではないでしょうか？ 風邪を引いてしんどい時も、何とか楽しく過ごす方法を見いだすとステキではないでしょうか？ できないと思ったら不可能です。できると思って工夫していくとちょっとは有意義に過ごせるようになります。

セルフカウンセリング

気持ちを少しでも前向きにする。特に落ち込んだ時をどう活用するか。そのためには、セルフカウンセリング力を持っていると役立ちます。自分の心なのにそれをコントロールするのはとても難しいです。上手くコントロールするにはやはりそのためのノウハウがありますので、カウンセリングや先人たちの生き方などを学んでおくと役立ちます。

お仕事は楽しいですか？ イキイキとお仕事出来ていますか？

小集団活動

平日 24 時間の内、約 1/3 あるいはそれ以上を通勤やお仕事の時間ではないでしょうか？ その時間が苦痛だと辛いです。エーザイの 35 年半の間、多くのことを体験しました。それぞれに懐かしく思います。その中で敢えて一番楽しかったのは何か？ と問われると、工場での小集団活動でした。

組織グループの 1 つ以外に、私が仲間に声をかけて 3 つ小集団活動を立ち上げました。一つは、「試験室で扱うガラス器具管理」についてです。ガラス器具の洗浄方法も工夫しました。ルツボがバーナーで加熱後冷却時に割れることも防ぎました。仲間と話し合いながらたくさんの改善を実施しました。それによりとても使いやすくなりました。

二つ目は当時 HPLC は男性の一部の人だけが試験していました。いずれ HPLC は試験が増えると思い、女性に声をかけて「HPLC 試験方法の原理を学び、試験方法を体験する」ことにしました。HPLC を学ぶだけでなく、分析機器メーカーのインテグレーター操作講習会にも参加してもらいました。女性が外部の講習会に参加するのは初めてのことでした。皆さんご自分の成長を感じながら楽しくして活動できました。この基礎学習がその後の HPLC 分析増加にも対応できたベースになりました。

三つめは当時「試験データを活用する」グループです。今でいう製品品質照査のデータ解析を 40 年前に始めました。試験検査データは IBM のコンピューターに保存されていたので、それを表で取り出し、そのデータを APL 言語(行列で計算)で処理し、管理図、ヒストグ

ラム、工程能力指数を求めました。メンバーが APL 言語を覚えて分担してプログラムを作成しました。製品が安定しているかどうか、管理されているかどうか簡単にわかるようになりました。

3つのグループは参加者が異なっていましたが、私はオブザーバーで参加し、リーダーはメンバーの中の人にお願ひしました。「やらない？」と声をかけ、やりたい人だけ集めました。皆で話し合っ、皆で考え、そして改善しました。メンバーもイキイキとして活動してくれました。私もとても楽しかったです。自分たちの困っていることを改善する。自分たちが成長できる。新しいことを行うなど、成果を実感できました。なにより仲間とのつながりが楽しかったです。仕事以外にも様々な話をしました。

分析の自動化

小集団活動の他にも分析の自動化を進めました。当時島津のインテグレーターが BASIC 言語でプログラミングできました。オートサンプラーを活用し、HPLC & GC 夜間運転、計算の自動計算などもプログラムしました。UV の XY サンプラー使った自動測定など。また天秤のプリンター代わりに購入したエプソン HC-20 も BASIC 言語が仕えたので、平均、 σ 、Max、Min など自動計算させました。GC の夜間自動化運転、溶出試験のサンプリングの自動化(まだ試験装置メーカーが販売する前)に関心のある数名で取り組みました。

楽しかったのは自分達で創意工夫でき、その結果効率が上がり、かつ自分たちも成長できたからだと思います。

マネジメントの大切なことは人材育成です。将来のために人材育成の種蒔きができるかどうかです。種を蒔いた人はその成果を味わうことはできませんが、将来のために種を蒔いているのです。同じ種蒔きをするなら人が楽しくできるように環境を用意することです。もちろん気持ちへの働きかけが重要になります。

「あたかも二度目の人生を生きるように生きる」

この言葉は「夜と霧」の著者ヴィクトール・フランクルが始めたロゴセラピーで述べています。「夜と霧」は精神科医のフランクルがナチスの強制収容所での体験を記した本ですが、1991年、アメリカ議会図書館の調査「私の人生に最も影響を与えた本」ではベスト10入りを果たしています。

人生を二度生きることはできません。あたかも一度目が失敗であったかのように、これからは同じ失敗をしないように今をより良い選択をして生きるということです。

会社が悪い。上司が悪い。職場の同僚が悪い。その通りかもしれませんが。だから私はできないんだと言っていると大切な時間を無為に過ごしていることになります。今の行動が将来の結果につながっています。一度きりの人生をよくない会社、上司、同僚のせいにして、自分を大切にしないと将来に光はありません。悪い状況でも、悪い状況だからこそ、学べること、出来ることがあるはずです。イキイキと仕事をしている人が一人でも増えるマネジメントが出来るか？ 出来なくても自分はイキイキと仕事をしているか？がとても大切になります。